

臨時市長記者会見



本日の案件

- 1 いわき版「骨太の方針」について
- 2 小名浜地区トークシェアミーティング（市民対話）について

令和 6 年 10 月 11 日

臨時市長記者会見



案件①

① いわき版「骨太の方針」について

いわき版

骨太の方針

2024 → 2025

2024

10月

骨太の方針

次年度、本市が取り組む市政運営の方向性を示し、早い段階で市民の皆様と共有

市の現状

重点政策

構造改革

「骨太の方針」に基づき、まちづくりを推進

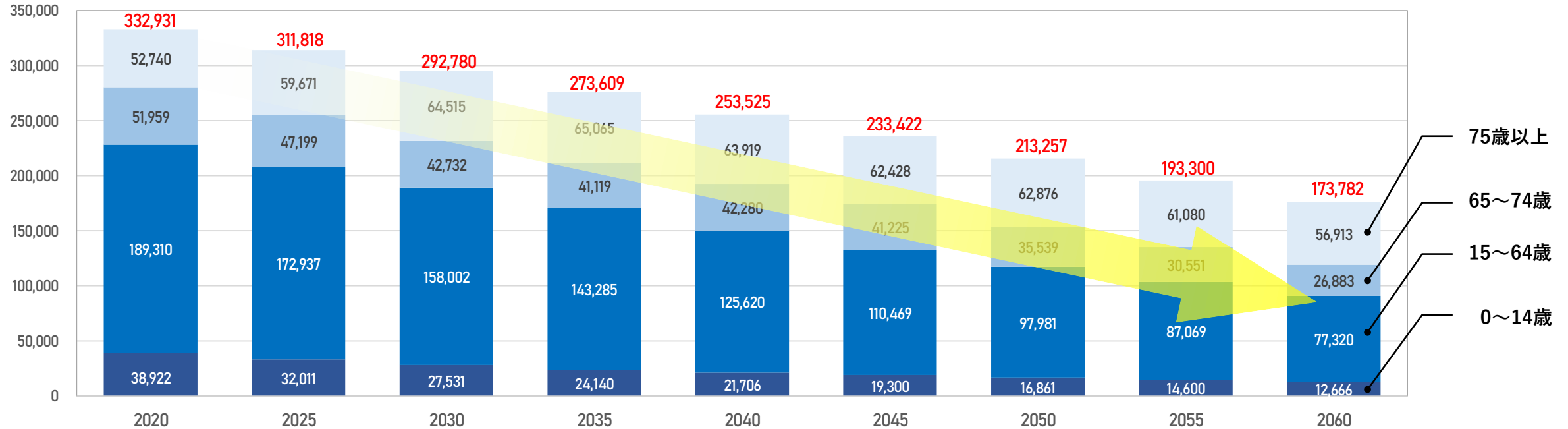
予算編成

組織見直し

人事配置

2025

市の現状



① 人口減少・少子高齢化

- 人口減少、少子高齢化の進展により様々な問題が連鎖的に発生
- 経済規模の縮小、地域を支える共助力の低下や集落機能の維持困難等

② 担い手不足

- 労働人口バランスの不均衡による産業人材の不足
- 農業、医療・福祉、交通など、様々な分野で人材確保が困難

③ インフラ・公共施設

- 公共施設の老朽化、大量更新時期の到来
- すべての公共施設等をこれまでどおりに維持し続けることは困難

④ 自然災害

- 気候変動や地球温暖化などにより、自然災害が激甚化・頻発化

⑤ 地域の活力の低下

- 人口減少が進行するなか、地域経済・地域コミュニティが衰退
- 若者の流出に歯止めがかからず、観光入込客数も未だ回復していない

Well-Beingなまちづくり

人口減少社会にあっても、市民ひとりひとりのLIFEを尊重し、幸福度の高いまちづくりを目指します
デジタルも活用しつつ、人の手・温もりが欠かせないサービスには、しっかりと人的リソースを配分することで、
あたたかいまちづくりになると思っています

行政・企業・地域みんなが参画し、あなたの・わたしのLIFEを支えていきます

Well-Beingなまちづくり

1 次世代を育てる



教育
子育て
担い手

次世代

2 命・暮らしを守る



防災
医療/健康
暮らし

命・暮らし

3 まちの魅力を高める



まち
環境/GX
地域交通

まち

豊かさ

4 豊かさを創る



産業
農林水産
観光・文化・スポーツ

「人づくり日本一」の実現

重点的に取り組む施策

市が直面する喫緊の課題や社会環境の変化等を踏まえるとともに、
未来を見据えた「人づくり日本一」の実現を目指し、
令和7年度は、次の6つの施策について重点的に取り組んでいきます

01 教育

学力日本一を目指す



02 子育て

こどもまんなか社会の実現



03 防災

逃げ遅れゼロ、災害死ゼロへ



04 医療

医療の確保と将来人財の育成



05 産業

産業人財の確保・育成
稼ぐ力の向上



06 まちの機能充実

未来に誇れる都市への挑戦



01 教育

学力日本一を目指す

○ 学力向上の推進

「ダッシュボード」の活用により、学校・学級の強みや課題を「見える化」し、学力向上アドバイザーによる全校訪問を実施。また、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善につながるような指導・助言を実施し、学力向上を推進

○ 教育環境の整備

学校給食費のさらなる負担軽減をはじめ、**全ての公立小中学校のトイレの洋式化**、特別教室へのエアコンの整備などを進め、安心して学べる教育環境を整備

○ 支援を要する児童生徒に対するサポート

支援が必要な児童生徒一人ひとりの特性に応じた個別の教育支援・指導計画を作成できる特別支援教育ソフトの活用や支援員の拡充などを実施し、支援を要する児童生徒に対するサポート体制の充実・強化

指 標	現 状	3 年後
本市の学力	国語は全国平均 算数・数学は全国平均以下	まずは全国平均以上
自己有用感	全国平均以下	まずは全国平均以上
トイレの洋式化 (適正器具数)	約80%	100%

02 子育て

こどもまんなか社会の実現

○ こどもの権利への理解促進

こどもの権利について市民の理解を深めるとともに、こどもが自らの権利を正しく理解できるよう、こどもの権利普及啓発を強化するとともに、こどもの意見表明機会を創出し、こどもまんなか社会を実現

○ 安心して子育てができる環境づくり

保育環境の整備・質の向上のため、保育士確保の取組みを拡充するとともに、多様な地域人財の活用により、保育体制を強化。また、こどもの疾病等の早期発見などのため、**乳幼児健康診査に新たに「1 か月児健診」**を追加するほか、**誰もが安心して遊べる公園の整備を検討**

○ 困難を抱えるこども・家庭の支援

国県の支援が行き届いていない**ひとり親等家庭に対する高等学校入学時等の支援**について、市独自の経済的支援を実施し、困難を抱える家庭の支援を充実

指 標	現 状	5 年後
「こどもまんなか社会に向かっている」と感じる こどもの割合 (※) ※中学2年生を対象としたアンケート調査	約 4 割	7 割以上
乳幼児健康診査受診率	96.2%	100%

03 防災

逃げ遅れゼロ、災害死ゼロへ

河川洪水への対応

AIによる河川水位予測システムの導入や雨量情報の公開システムの構築、河川洪水の想定浸水深等を記載した看板の設置により、逃げ遅れゼロ、災害死ゼロを目指す

災害対応力の強化

防災学の世界的権威である東北大学災害科学国際研究所と連携を強化し、市総合防災訓練の企画や市民への防災啓発に対し学術指導をいただき、災害対応力を強化

消防・救急体制の強化

高齢化の進展による救急出動件数の増加など、社会環境が変化する中でも安定して救急サービスを提供できるよう、さらに救急救命士を毎年計画的に養成し、消防・救急体制を強化

指 標

現 状

5 年後

災害死

-

ゼロ

04 医療

医療の確保と将来人財の育成

救急医療体制の強化

休日及び夜間の救急医療確保のため、市病院協議会が運営する病院の当番体制の支援のほか、新たに、救急搬送を受け入れる救急告示病院の救急医療の運営体制強化を支援し、救急医療を確保

医療提供体制の強化

医療センターの常勤医不在の診療科の解消（※）をはじめ、市全体で「優先して確保すべき診療科」の充実強化を図るほか、市内に新規開設・承継する診療所に対する支援制度の承継対象を拡大し、医療提供体制を強化
※常勤医不在の7診療科のうち3診療科について、10月までに解消

医療人財の確保

大学医学部生に貸与する修学資金の返済を免除する「修学資金貸与制度」について、勤務対象病院を市内全病院に拡大するなど、利用しやすい制度に見直しを図り、医療人財の確保を推進

指 標

現 状

5 年後

医師確保数

21人増（R2⇒R4）

100人（10年間）

医師の平均年齢

55.9歳

54歳

05 産業

産業人財の確保・育成、稼ぐ力の向上

○ 産業人財の確保と育成

地元理解の促進や魅力的な働く場の創出、多様な働き手の活用などによる産業人財の確保と、児童学生などの将来人財や経営者・従業員の即戦力人財の育成を官民連携で推進するほか、「CIFALジャパン国際研修センター」と連携した人づくりも推進

○ 企業の挑戦の支援/成長分野への参入促進

企業の成長フェーズや事業の熟度に応じた支援を行い、企業のチャレンジを成功に導くとともに、次世代エネルギーなど、本市で成長が期待できる産業分野への市内企業の関わりを高め、福島国際研究教育機構（F-REI）との連携促進や、企業立地環境に関する調査などを行い、企業の稼ぐ力を向上

○ 稼げる農林水産業

国内水産物に対する規制緩和、「常磐もの」をはじめとする農林水産物のブランド化、地域内外における認知度向上に伴う流通拡大も視野に入れたマーケティングの強化に取り組み、稼げる農林水産業を実現

指 標	現 状	5 年後
本市の短大・高専・大学・大学院卒の就業者割合	33.42%	40% (令和12年までに)
経営革新に挑戦する企業	-	80社/年

06

まちの機能充実

未来に誇れる都市への挑戦

○ 魅力的なコンテンツづくり

令和8年に開催する国内最大級の観光キャンペーン「ふくしまデスティネーションキャンペーン」と連携したイベントの開催、ナショナルサイクルルート指定に向けたサイクルツーリズムの推進、いわきFCと連携したスポーツの魅力発信、中山間地域の魅力を体感できるアウトドア観光の推進など、若者を惹きつける魅力的なコンテンツを創造

○ サステナブルなまちの実現

いわき駅周辺の都市機能集積や土地利用検討、常磐・四倉地区の市街地再生整備など都市機能の充実を図るとともに、循環型社会、カーボンニュートラルの実現にチャレンジし、まちの魅力を向上

○ 地域公共交通の強化

主要な都市拠点間を結ぶ「基幹バス」等の維持・強化や域内交通としてオンデマンド交通の実証、公共交通空白地域における共創型の移動サービスを実証・導入、交通事業者の従業員の第二種運転免許取得に係る経費補助などにより、誰もが利用しやすい市民の足を確保

指 標	現 状	5 年後
観光入込客数	687万人/年	850万人/年
公共交通空白地域	-	ゼロ

今後の検討

Well-Beingなまちの実現には、一緒にチャレンジする仲間が必要です

仲間とは、いわき市で暮らしている方（いわきで生まれる方、いわきで学ぶ方、いわきで働く方など）、そして、いわき市外で暮らしている方で、いわきを応援したいと思ってくださる方、これからいわき市民になっていただく方などです。

市内・市外の企業・団体の方も、力をあわせる大切な仲間です。

Well-Beingなまちの実現に力を発揮できるような仕組みを、みんなで一緒につくりましょう。

みなさん一人ひとりの力をあわせれば、これまで経験したことのない超高齢社会など予測不能な未来を迎えても、

「住んで良かった 住み続けたい」と実感できる、みんなが幸せなまちを実現できるはずです。

Well-Beingなまちづくり

挑戦する力を高める

- ◆ 学ぶ力や郷土愛・地域貢献意欲の醸成
- ◆ 業務スキル向上・リスクリング など

手を取り合う仕組みを生かす

- ◆ 公民連携の拡大（市民・企業・団体などあらゆる主体の参画促進）
- ◆ シニア世代の経験や知識等の、地域活動への還元
- ◆ 企業・団体の社会・地域貢献ニーズのマッチング など

挑戦する仲間を増やす

- ◆ U I J ターンや副業人材活用の促進
- ◆ 関係・関心人口や交流人口拡大 など

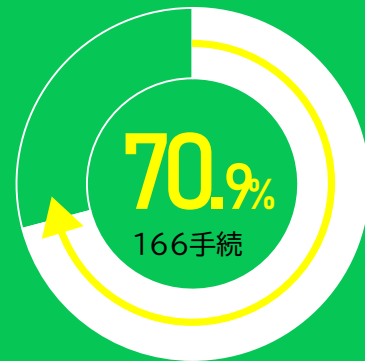
人づくり日本一の実現に向けた様々な取組

構造改革

これまでの歩みと成果

「市民サービスのデジタル化」を進めています

行政手続オンライン化率



オンライン手続件数

(コンビニ+オンライン)

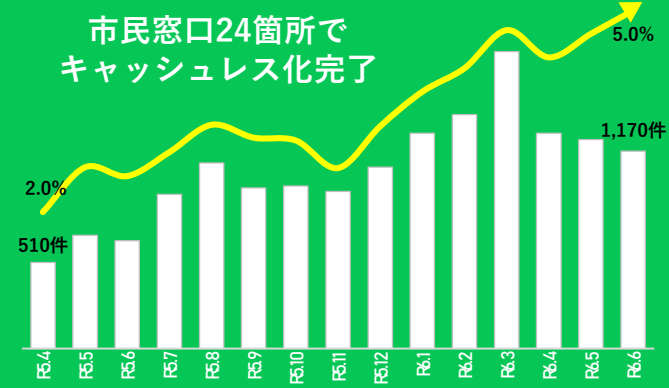
オンライン手続利用が増加



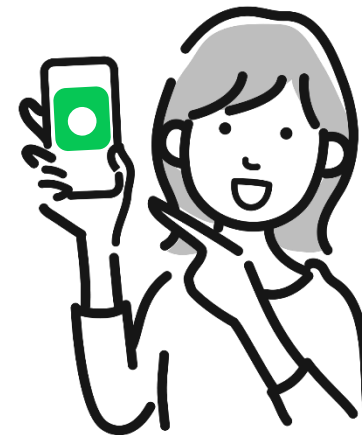
キャッシュレス決済件数

市民窓口24箇所
キャッシュレス化完了

前年同月比 82.8%



さらに、10月より **スマホ市役所** がスタート



学校連絡

欠席・遅刻等の連絡や
学校からのお知らせなど

申請・予約

各種証明書申請
公共施設の予約など

子育て

放課後児童クラブ空き確認
子育て関連相談など

ごみ関係

大型ごみの収集申込
AIごみチャットボット

市民意見広聴

パブコメ・市民アンケート
など

市民サービスが
変わってきた

「仕事のやり方」をデジタルベースへとシフトしています

決裁は全てデジタルで

電子決裁率

2020 1.0% → 2023.12 100%

様々な場面で
フォームツールを活用

手続・申請・予約フォーム作成

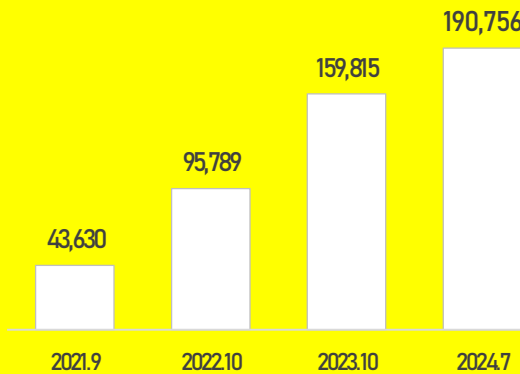
アンケート

照会

会議・協議はペーパーレスに
議会もペーパーレスに

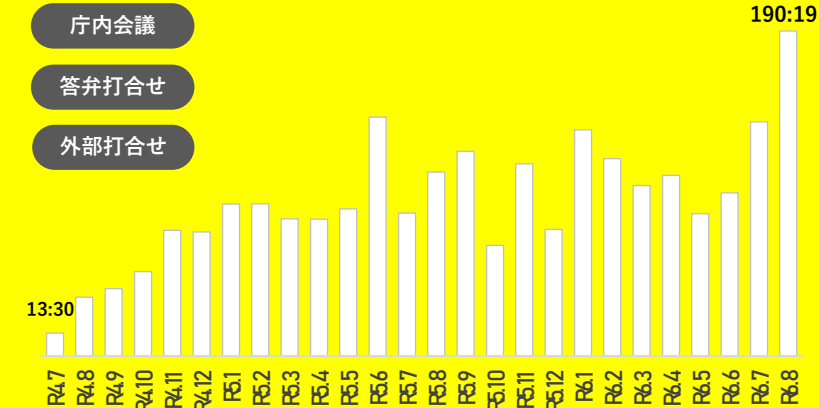
チャットツールで効率アップ

利用状況（月間チャット数）



会議・打合せはウェブが主流に

ZOOM利用状況（ミーティング時間）※市主催のみ



AIの活用を進めています



生成AI



AI-FAQシステム



AI会議録システム

未来型オフィスを試行的に整備



Before



After

「業務のスリム化・マネジメントの適正化」を進めています

業務のスリム化

■共通業務のスリム化を進めています

- ・業務量が見える化するため、業務量調査を実施
- ・共通業務カイゼンマニュアル策定
- ・予算編成の省力化を実施



■固有業務のBPRを進めています

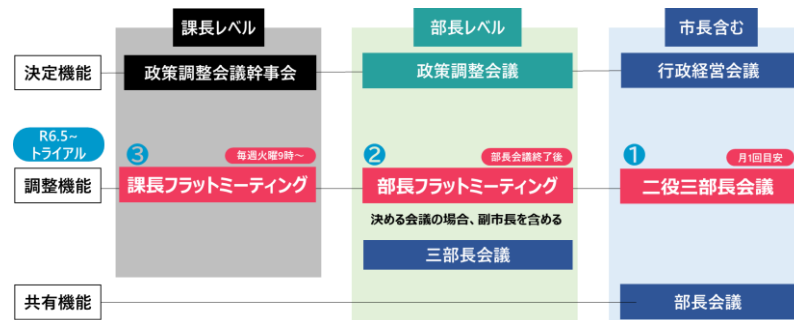
- ・各所属ごとにBPRを実施
- ・管理職を対象としてBPR研修を実施

■事業の選択と集中を進めています

- ・事業レビューを実施

政策形成のスピードアップ

■庁内調整・意思決定に係る会議体を試行的に見直し



■政策調整を弾力的に運用

- ・調整期間を限定せずに通年で政策を具現化できるよう柔軟に対応しています

人材マネジメントの強化

■人材育成基本方針を改訂

- ・目指すべき職員像や必要な能力を明示し、社会情勢等の変化に柔軟に対応できる自律型の人材育成に取り組んでいます

■仕事の成果を業績目標の達成度で評価する新たな人事評価制度を導入

- ・R7からの本格実施を見据え、客観性、納得性の高い制度の構築を目指しています

■デジタル人材の育成を強化

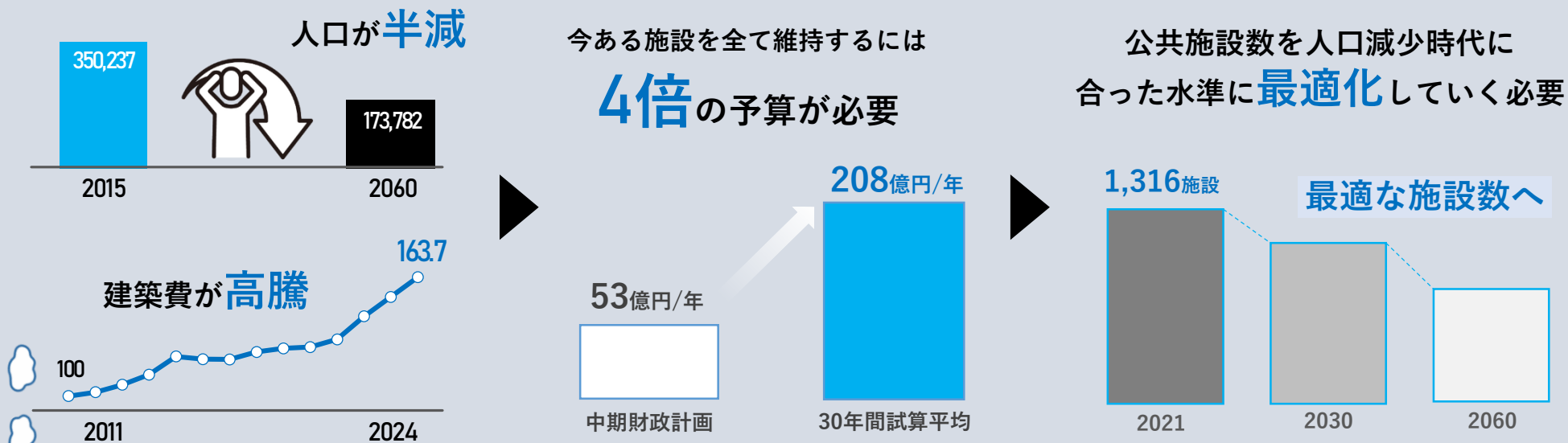
- ・幅広くデジタルリテラシーを高めることのできるオンライン型の研修メニューを導入しました

■資格取得支援制度を創設

- ・職員の自己啓発を奨励し、勤務能率の向上等を図ります

これらの効率化により生み出されたリソースを活用し、サービスの質向上、政策の具現化につなげていきます

「公共施設」の最適化を進めています



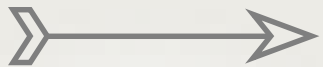
- 令和6年5月に「いわき市公共施設等総合管理計画に基づく『個別施設計画』」を策定。
- 「個別施設計画」では、施設ごとに今後の施設のあり方の方向性や検討スケジュール、改修の見通しなどを整理し、**個別施設の今後を「見える化」**。
- この計画は、市が施設再編の方針などを決定事項として一方的にお伝えする、といった性格のものではありません。市民の皆様と、本市の公共施設等を取り巻く厳しい現状や危機感を共有し、**施設のこれからについて意見を交わしていくための計画**です。
- 今後の市民の皆様との対話の状況などを踏まえて、定期的に内容の更新や修正を図る「生きた計画」としていきます。

構造改革

今後進めていく主な取組み

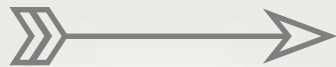
構造改革 五本の矢

01



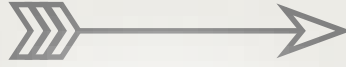
より便利に
市民サービス
DX

02



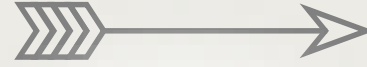
しごとを徹底的に
効率化

03



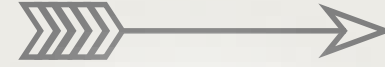
サービス・インフラの
最適化
に挑戦

04



人口減少社会においても
持続可能な
行財政マネジメント

05



パフォーマンスを
引き出す
人材マネジメント

対面もデジタルも
利便性を向上
します

生産性を向上し、
市民の満足感
を高めます

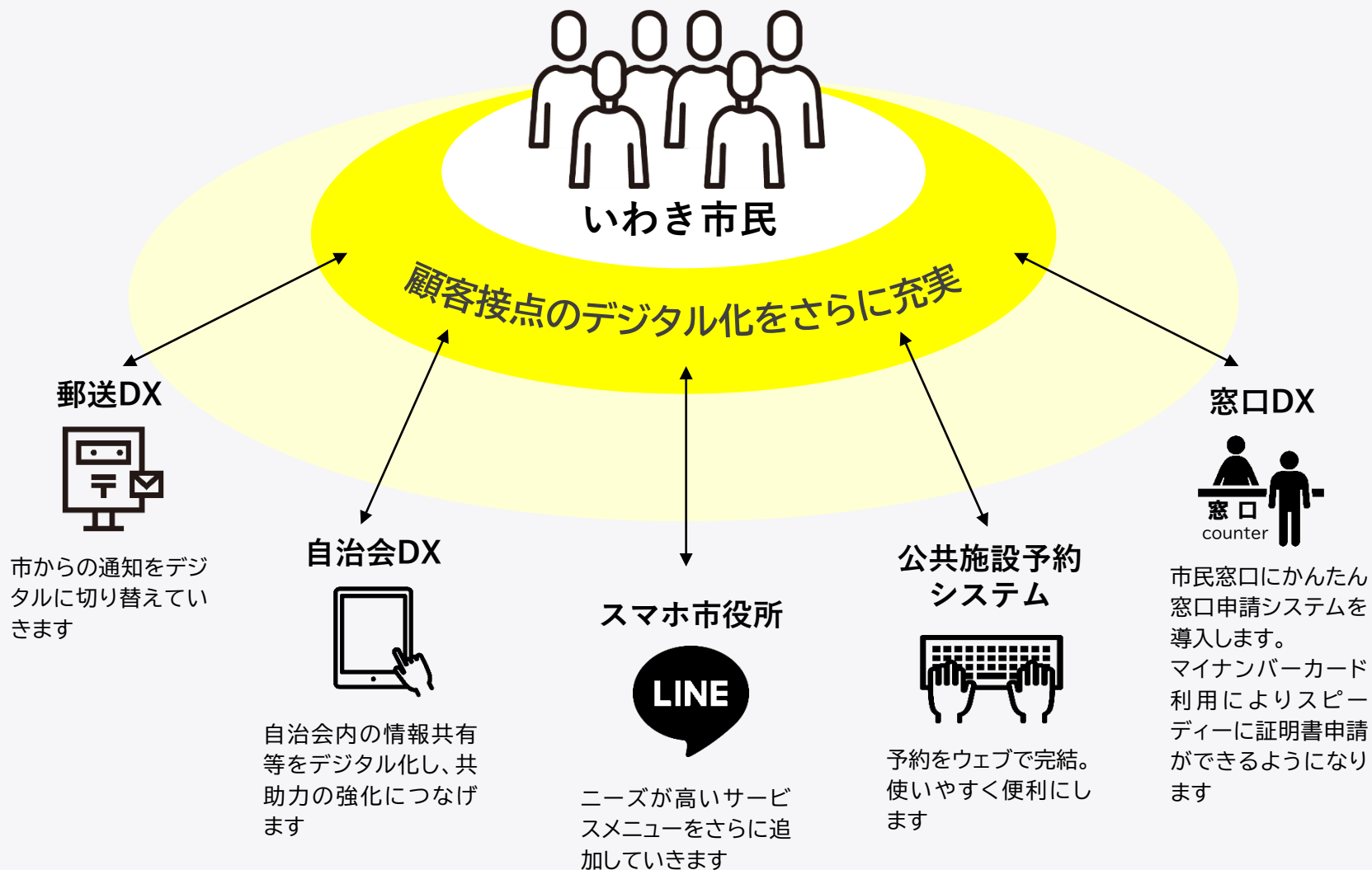
ちょうどいい
施設とインフラを
目指します

行財政マネジメントの
仕組みを強化
します

職員の
能力と意欲を
最大化します

01 より便利に 市民サービスDX

対面もデジタルも利便性を向上します



R7.7-

総合コールセンターの導入

- 市民の皆様からの問合せをワンストップで対応。転送等でお待たせすることなく、即座に回答できるようになります
- 閉庁時間でも問合せが可能になります
- 営業時間
平日 8:30-19:00
土日祝 8:30-17:00

R7.2-

保育所DX

- 保育の現場に保育業務支援クラウドサービスを導入し、保育の質の向上と業務のスリム化につなげます
- 保育所と保護者をつなぐアプリで、様々なことができるようになります

保護者連絡(欠席等)

登降園管理

発育・健康確認

写真共有・アンケート

02 しごとの効率化

デジタル化や業務の見直しにより、しごとを効率化していきます

契約・会計のデジタル化を進めます

内部業務の効率化と地域産業のDXにつなげます

■ 契約書のデジタル化 R6.10-

契約書作成の手間が効率化され、印紙や郵送が不要に

■ 請求書のデジタル化 R7.1-

内部会計処理が効率化され、事業者も郵送が不要に

■ 法人クレジットカードの導入

ペーパーレスをさらに推進します

ペーパーレスを促進するための環境整備を引き続き進めていきます

■ コピー機の長期継続契約更新に合わせ、設置箇所の統廃合を検討

[更新台数]

R6末 146台

R7末 126台

R8末 128台

■ 未来型オフィスへの切り替え



各業務においてDXを推進します

■ 介護認定審査業務のデジタル化

→介護認定審査会をオンライン化し、運営を効率化

- ・介護認定審査会のペーパーレス化
- ・認定調査のデジタル化
- ・認定審査の進捗状況が見える化

■ 保健師業務のデジタル化

→業務の効率化により、市民対応の質向上へ

- ・まずは、個別ケース管理のデジタル化を進めます

■ 公開用GIS（いわきiマップ）の充実

→WEBの地図上から様々な行政情報を確認

- ・建築関係情報、埋蔵文化財情報等を追加

■ 生成AIのさらなる活用

■ EBPMの基礎となるデータの見える化

03 サービス・インフラの最適化

人口減少時代に即したちょうどいい水準に

公共施設の最適化に向け 市民対話を進めます

- 個々の施設について、施設の特性等に応じて、対話の時期、対象者、手法等を整理した上で、市民の皆様との意見交換を行います
- 複合化などエリアごとの議論が必要な施設については、老朽化などの状況を勘案し、緊急性の高いエリアから順次、意見交換を行います

人口減少を踏まえ、地域特性に応じた 市民サービスのあり方を検討します

- 人中長期の人口動態を踏まえ、真にニーズのある市民サービスを効果的に提供できるよう、地域特性に応じたサービスモデルを構築していきます

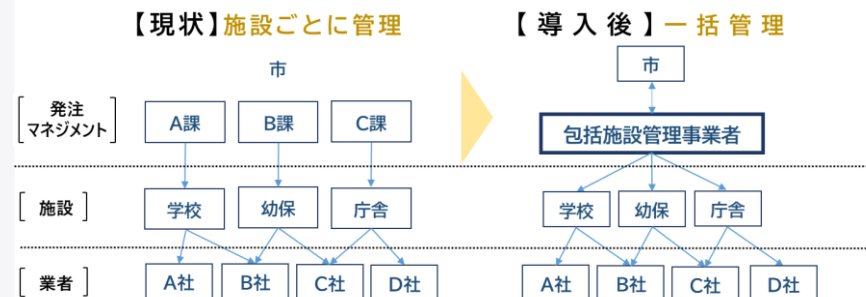


包括施設管理委託を導入します

現在、公共施設の維持管理業務については、施設所管部署ごとにバラバラに発注しており、管理水準の統一化や業務の効率化などの課題が生じています

230の公共施設について、本市と専門性を持つ包括施設管理事業者との契約により一括して維持管理を実施

これにより、管理水準の統一化や向上を図り、事故リスクの軽減など、施設利用者のより一層の安全安心の確保につなげます



04 人口減少社会においても持続可能な 行財政マネジメント

選択と集中を引き出すための新たな
行財政マネジメントを構築します

予算の見える化・簡素化を進めます

- ダッシュボードを活用した「予算の見える化」を進めます
- 内部管理事務（流用、執行計画、補助申請等）の簡素化をさらに進めます。

新たな中長期の財政運営指針を 策定します

- R7までを期間とする現行の中期財政計画に変わるものとして、決算に着目した「中長期の財政運営指針」を策定します



事業の見直し基準を策定します

人口減少により、財政制約が厳しくなっていく中、新たな政策に取り組んでいくためには、同時に必要性の小さい事業を見直していく必要があります

- 事業効果を的確に判断できるよう、成果指標による事業評価を徹底し、事業効果の見える化を図ります
- 事業評価の結果を踏まえ、事業の選択と集中を進めるための基準となる「事業の見直し基準」を策定します

05

パフォーマンスを引き出す人材マネジメント

質の高い行政サービスを提供するため、
職員の能力と意欲を最大化していきます

能力・実績を重視した 人材マネジメントをより一層進めます

- 新たな人事評価制度をR7年度から本格実施します
- 人事評価の結果、一定水準に達しない職員には、改善プログラム等を行い、全体の底上げを図ります
- 給与に人事評価の結果を反映することを見据え、人事評価制度の見直しを進めます
- 職務や業績に応じた報酬設定など、引き続き給与制度の見直しを進めます

職員数と人件費を適正化します

- 行政ニーズや人口減少時代に適応した職員数のあり方を検討し、新たな「定員管理に関する方針」を策定します



魅力ある勤務環境を整備します

- テレワーク制度や時差出勤制度の創設、休暇制度の見直し等により、働きやすい環境を整え、業務効率向上とワーク・ライフ・バランスの実現につなげます
- 職員の自主的な地域貢献活動を支える、新たな休暇制度の創設を検討します
- 職員の健康増進等を図るため、勤務間インターバル制度を試行的に導入します

職員の採用手法を改善します

- インターンシッププログラムの充実や周知方法の見直しを図り、若手職員の確保につなげます
- 職員採用試験（募集時期）の早期化を検討します

市民サービスデジタル化のロードマップ

やれるところから

R4-5 STEP 1



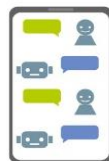
キャッシュレス決済



行政手続オンライン化



お出かけ市役所



チャットボット

デジタルサービスを充実強化
～市民接点のデジタル化～

R6

STEP 2



スマホ市役所

R6.10-



保育所DX

R7.2-



書かない待たない窓口

R6.12-

一気通貫のデジタル化
～デジタルでサービスを完結できるように～

R7-

STEP 3



総合コールセンター

R7.7-



公開用GISの
データ拡充
(建築/文化財情報)



郵送DX
(通知のデジタル化)



電子回覧板
行事等出欠確認
防犯/見守り

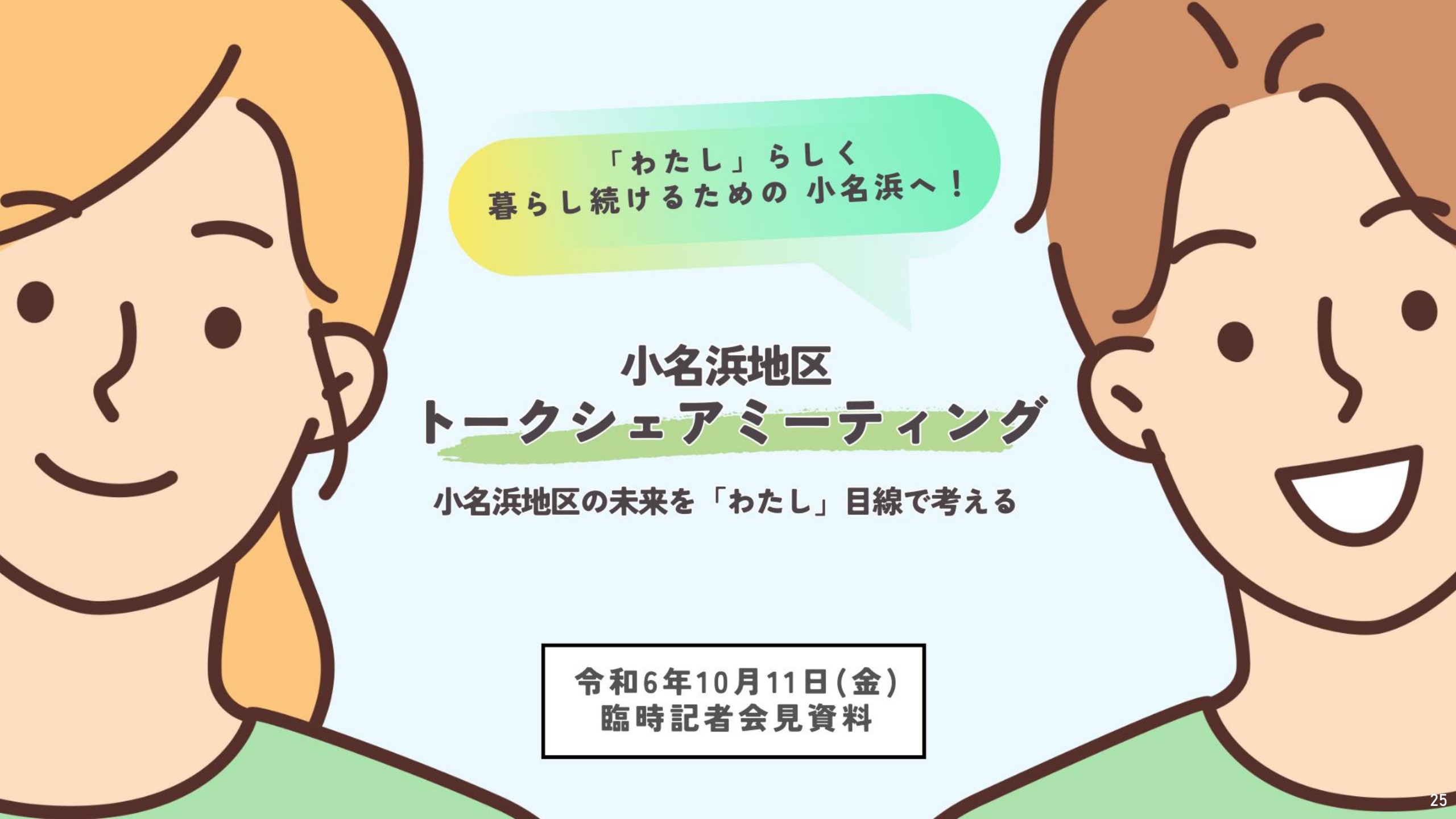
自治会DX

臨時市長記者会見



案件②

2 小名浜地区トークシェアミーティング（市民対話）について



「わたし」らしく
暮らし続けるための 小名浜へ！

小名浜地区 トークシェアミーティング

小名浜地区の未来を「わたし」目線で考える

令和6年10月11日(金)
臨時記者会見資料

令和6年5月 策定

これまでの経緯

「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づく

「個別施設計画」



人口減少や少子高齢化、施設の老朽化や大量更新時期の到来など、本市の公共施設等を取り巻く現状が深刻さを増す中、すべての公共施設等をこれまでどおり維持し続けることは不可能です。

市では、今ある施設ありきではなく、これからの時代に必要な機能・サービスの受け皿としての施設のあり方について、具体的に考えていきます。

必ずしも、施設の数＝暮らしやすい・便利、ではないはずです。

何十年にもわたって続く「これまでどおり」を「当たり前」とするのではなく、今こそ一緒に考えましょう！

「本当に必要なサービス・機能」から施設のあり方を考える

3 「市民対話」の進め方 ～施設の今後の方向性を市民の皆さんと共有～

- ▶ **複合化を前提としていない施設** (Ex. 宿泊施設、キャンプ場など) は、利用状況をはじめとした施設の現状を踏まえ、将来を見据えた施設のあり方について、**適切なタイミングで丁寧な対話を実施**。
- ▶ **複合化などを想定している場合** (Ex. 支所、公民館など) は、老朽化度合いなどを踏まえて、今年度から**緊急性の高いエリアから順次**、市民対話(意見交換)を実施。【今年度下半期から本格開始予定】
- ▶ 適宜、市議会への情報提供や意見交換などを実施。
- ▶ 「市民対話」、市議会との意見交換などを踏まえ、**毎年度、進捗状況を公表**。

複合化を前提としていないもの
(Ex. 宿泊施設・キャンプ場・観覧施設など)

- Step 1** 対話の時期と対象者・手法等の検討
- Step 2** 市民対話(意見交換)
- Step 3** 市民対話を踏まえ施設のあり方を整理



複合化などを想定しているもの
(Ex. 支所・公民館・図書館・消防署など)

- Step 1** プレ市民対話(地域の主要団体からの意見聴取)
- Step 2** 市民対話(意見交換)
- Step 3** 市民対話を踏まえ拠点機能のあり方を整理



「複合化などを想定しているもの」について地区単位で実施

トークシェアミーティングを
通じて見つけた仲間と一緒に実現

トークシェアミーティングとは

様々な政策へ
反映

一人ひとりの「わたし」の
「こうありたい」を言葉にして伝え合い
まちに反映していくしくみです

民間活力を
活用

公共施設等の
あり方に反映

トークシェアミーティングを
通じて見えてくる真のニーズの
受け止め方は多様と想定

施設に関するものは
その一部に過ぎない



市が案を提示して意見をお聴きする
スタイルではなく、ゼロベースで声
を聴き合いたいと考えています。

よくある「説明会」
ではありません



白か黒か、あちらかこちらかなどの
何かしらの結論をトークシェアミー
ティングの中で出すことはありません。

「何かを決める場」
ではありません



市職員も「市職員という職業である
一市民」の立場で参加しています。

「何かを要望する場」
ではありません

＼ 同一回・日程違いのトークテーマは同じ／

第 1 回

「わたし」が
小名浜で
やりたいこと

2024年

- ① 11/8(金) 10:00～11:50
- ② 11/8(金) 18:30～20:20
- ③ 11/9(土) 10:00～11:50

第 2 回

やりたいことを
やる時に
よかったこと・
困ったこと

2025年

- ① 1/31(金) 10:20～12:50
- ② 1/31(金) 18:20～20:50
- ③ 2/1 (土) 9:30～12:00

第 3 回

よかったとき
・困ったとき
誰と関わると
良いか

2025年

- ① 3/14(金) 10:20～12:50
- ② 3/14(金) 18:20～20:50
- ③ 3/15(土) 9:30～12:00

第 4 回

どこでなら より
「わたし」らしく
やりたいことを
やれるか

2025年

- ① 5/16(金) 10:20～12:50
- ② 5/16(金) 18:20～20:50
- ③ 5/17(土) 9:30～12:00

会場

日程ごとに
会場がわり開催
(地図などは裏面参照)

第 1 回

- ① 小名浜公民館 2 階 会議室 (いわき市小名浜愛宕上7-2)
- ② 鹿島公民館 2 階 講堂 (いわき市鹿島町走熊字鬼越83-1)
- ③ 小名浜公民館 3 階 小講堂 (いわき市小名浜愛宕上7-2)

第 2 回
第 3 回
第 4 回

- ① いわき・ら・ら・ミュウ 2 階 研修室A (いわき市小名浜字辰巳町43-1)
- ② イオンモールいわき小名浜 4 階 イオンホールA (いわき市小名浜字辰巳町79)
- ③ 小名浜公民館 2 階 会議室 (いわき市小名浜愛宕上7-2)

定員

各日程30名程度

対象

市内にお住まいの
小学生以上の方

参加費

無料

参加方法

右のQRコードから事前申込
※各日程の7日前までにお申し込みください

お問合せ

財政部 施設マネジメント課
総合政策部 政策企画課

電話 0246-22-7408

トークシェア
ミーティングの
参加申込はこちら



今後の展開

※ 旧耐震基準の施設など

短期目標 <令和7年度末まで>

民間代替性の高い施設を中心に
維持管理・更新コストを6億円縮減

R6.11月

R7.5月

トークシェアミーティング

中期目標 <令和12年度末まで>

方向性を「あり方見直し」とした施設※
の検討結果を実現

R9.3月

長期目標 <令和13年度～>

公共施設等全体の
質・量のさらなる最適化

小名浜地区

主要な施設のあり方の方針を踏まえ
必要なものについて
施設を改修 又は 新たな施設を整備

トークシェアミーティングの
他地区への展開可能性を検証

主要な施設のあり方の方針決定
に関するパブリック・コメント
主要な施設のあり方の
方向性案を整理

検証結果を踏まえて トークシェアミーティング
のような取組みを他地区に展開する可能性も視野

平、勿来、内郷、遠野、小川、好間地区

常磐、四倉地区（市街地再生整備）

三和、田人、川前、久之浜・大久地区（中山間地域の課題解決に向けた取組みなど）